

安全安心生活デザイン学科2年（派遣時）

顧 錚 さん

「歴史や異文化にすごく興味を持っているなら、ぜひタイに行ってみてください」と思っております。いくら写真や映像などを見ても、自分の口で味を、自分の鼻でにおいを感じて、自分の耳で聞いて、自分の目で見るとは違います。そして、「タイ語が全然分からなくても、心配が要りません」と、私はより深く感じております。なぜなら、英語、日本語と中国語が分かれば、天下無敵です。今回の海外留学は短期間でしたが、様々な事を体験して、毎日充実して過ごしました。泰日工業大学との短期交換留学プログラムに参加して本当に良かったです。これからもタイの友達と付き合い、生活を送りたいと思います。



経営コミュニケーション学科2年（派遣時）

青山 晋太郎 さん

今回、タイに行くことが決まり最初はとても楽しみにしていましたが、出発日が近づくにつれて、不安な気持ちが大きくなっていきました。英語とは違い、タイ語に関しての知識がほとんど無いため、コミュニケーションをとれるのか心配でした。しかし実際行ってみたら泰日工業大学の学生が親切にタイ語やタイについて教えてくれました。そのおかげで、不安はなくなりました。今日はどんなことをするのだろう、何を食べるのだろうと楽しみでしかたなかったです。日本にいたら絶対に味わえないことを体験して自分の肌でタイの文化を知ることができ、そこから日本の良いところや悪いところを見つめ直すことができました。



また泰日工業大学の学生と触れ合い感じた事は、とても勉強熱心だということです。日本語を勉強しているということもあり、分からない日本語があれば私達に聞いたり、常に持っている辞書を使ったりして紙などにメモをしていました。自分達の夢や目標に向けて努力する姿勢は見習わなければならないと感じました。

今回の海外研修で体験したこと全てが私にとって貴重なものとなりました。なかでも特に友達ができたことは大きいです。絶対にまた行きたいとさえ思いました。行ったら得るものばかりで、自分のためになるのもっと沢山の学生に経験してもらい、私達のように味わってもらいたいと思いました。

都市マネジメント学科1年（派遣時）

堰合 亮 さん

私たちは10日間という短い期間でしたが、数えきれない事を学び、日本に帰ってきました。タイにたくさんの友人ができました。私はその事が1番の収穫だと考えます。短い期間でしたが、一生の友人だと思えます。現在でもFacebookなどで連絡をとっています。現地の学生はとてもフレンドリーでした。『こんにちは』というと、必ず、『こんにちは』と返ってきます。そしてどんどん会話が進みます。



果たして私たち日本人はどうでしょうか？もし、留学生からあいさつされたらフレンドリーに返してあげることが出来るでしょうか？私は、日本人には恥ずかしがりやの人が多いと感じます。もっともっと、フレンドリーにいくべきです。そして、たくさん関わりましょう。彼らは私たちの持っていないものをたくさん持っています。

海外へいくと視野が広がります。自分の考える常識が常識ではなくなります。同時に、とても良い刺激になります。差別や偏見がなくなり、柔軟で広い心で物事が考えられる気がします。

短い期間でしたが、国際人に一歩近づくことができた、そんな、留学でした。

経営コミュニケーション学科2年（派遣時）

遠藤 麻矢 さん

私は今回のこの短期留学が初めての海外でした。行く前は「パスポート取られたらどうしよう」「体調崩したらどうしよう」など、たくさん不安がありました。でも、行ってみると不思議なもので「食べてみたい」「してみたい」「みてみたい」という好奇心が上回り、不安を気にしている暇などありませんでした。タイで日本では味わったことのないものを食べて、観て、感じて、触れて、聴いて、たくさん新しい経験をしました。そこで日本の良さに改めて気付かされ、逆にタイの良さに気付くことができました。本題である東日本大震災の発表もスムーズに進行し、日本の現状を伝えることができました。本当にタイで過ごした1日1日がすべて貴重な経験でした。その中でも、やっぱり現地ですべき絆が何より宝物かと思えます。言葉が通じなくても、絵を描くことによって、タイの友人に喜んでもらい心が通じました。この経験は自分自身の糧となり、自信になりました。そして、絵は国境を越え友人たちを幸せにできたという経験からデザインの方向に進みたいと思うきっかけになりました。

